

# 平成27年度酪農教育ファーム 認証研修会の概要

本会議は、北海道（平成28年1月14日～15日）、東京（1月28日～29日）、福岡（2月18日～19日）において、平成27年度の酪農教育ファーム認証研修会を開催した。研修会の目的は、酪農教育ファーム活動のねらいと意義、認証制度の仕組み、酪農体験学習時の安全・衛生対策などを学ぶとともに、酪農教育ファームファシリテーターの役割について理解を深めることにあり、3会場で49名が受講した。

研修プログラムの中から、「酪農教育ファーム認証牧場における安全・衛生の基準」と「酪農教育ファームファシリテーターの役割」について、その概要を紹介する。

## 1. 酪農教育ファーム認証牧場における安全・衛生の基準

北海道会場では、木田克弥氏（帯広畜産大学 畜産フィールド科学センター 家畜防疫研究室長 教授）、東京会場と福岡会場では山崎敦子氏（千葉県農業共済組合連合会南部家畜診療所 係長）が講師を務めた。

両講師は、酪農教育ファーム活動をおこなう上で注意しなければならない安全・衛生のポイントや、体験者の安全・衛生を確保し安心して行える酪農体験について、事例を踏まえながら紹介した。さらに、口蹄疫対策（防疫対策）についても、飼養衛生管理基準を元に説明した。

### （1）酪農体験受け入れに伴い想定される危害

- 1) 牛の健康
  - ・外部からの病原体の持ち込み
  - ・不適切な器具の取り扱いによるケガ
- 2) 人の健康
  - ・牛と環境からの感染やアレルギー、食中毒
  - ・不適切な保安管理による外傷
- 3) 悪いイメージ
  - ・悪臭、汚物、衛生害虫

### （2）酪農体験受け入れにおける安全・衛生のポイント

- 1) 受け入れ前の対策
  - ・危険エリアと見学可能エリアの区分
  - ・環境美化
  - ・危険物（農薬など）と車両の管理
  - ・人と家畜の衛生確保（手洗い所、トイレ、防疫施設、疾病牛の摘発と隔離）
  - ・傷害保険（施設賠償責任保険、生産物賠償責任保険など）への加入
  - ・食品提供の際の保健所への届け出
- 2) 受け入れ時の対策
  - ・注意喚起と保定、防衛専任担当者の配置
  - ・牛の下痢、皮膚病のチェック
  - ・危険の明記と接近防止策
  - ・注意喚起と安全確保担当者の配置
  - ・日除け、テントなど避難場所の準備

### （3）乳製品手作り体験時に注意すること

- 1) 場所
  - ・衛生管理区域内では行わない
  - ・居住区域の室内が最適
  - ・屋外では屋根の下、日蔭で三方を壁で囲まれた場所
- 2) 原料は市販のものを使う（食品衛生法）
  - ・搾乳体験時の生乳の飲用も絶対しない
- 3) 手作り体験の順序を考える
  - ・動物に触れた後には行わない
- 4) 飲食（事前に保健所に相談すること）
  - ・作ったものは絶対に持ち帰らない
  - ・容器は加熱殺菌したものを使用する

### （4）口蹄疫対策

世界各地、とくに地理的に近く、人、物の流通が盛んな中国、香港、台湾、韓国などで、動物の悪性伝染病である口蹄疫が頻発している。これを受け、農林水産省では海外への旅行者並びに日本への入国者へ、口蹄疫ウイルスを持ち込まないように注意を喚起している。

また同省では、農場への口蹄疫の侵入を防ぐため、農場を訪問する車両、持ち込む器具は必ず消毒し、関係者以外の農場への立ち入りは極力控えること、飼養する家畜の健康観察を毎日丁寧に行い、おかしいなと思ったらすぐに獣医師または最寄りの家畜保健所に連絡することを呼び掛けている。

## 2. 酪農教育ファームファシリテーターの役割

北海道会場では上田融氏（NPO法人ねおす）、東京会場では立野美香氏（イナアソシエーション代表）、福岡会場では石川世太氏（株式会社マチトビラ取締役・事務局長）が講師を務めた。

各講師は、酪農体験を通して、子どもたちが食やいのちの大切さに自ら気づき、それを学びに変え、日常生活に活かしていくことを支援する「ファシリテーターの役割」とは何かについて講演した。その後のワークショップ（参加型のプログラム）の中では、講演内容を踏まえ、受講者が「ファシリテーターの役割」について自らの意見を述べ、これについて活発に議論を行った。



北海道会場の参加者



東京会場の参加者



福岡会場の参加者